

## 卒業論文執筆要領 【ドイツ文学ドイツ語学専修（文学演習）】（2019年10月改訂）

### 【A】 論文全体の体裁

1. 論文は、「表紙/白紙/目次/本文/参考文献リスト/（その他添付資料等）/裏表紙」で構成する。
2. 原則としてワープロソフトを用いて作成する。（手書きの場合は教員の指示に従う）
3. A4用紙の左に35ミリ（穴あけ部分）、上・下・右に25ミリの余白を設ける。
4. 日本語で「本文」1ページ横書き 40字×30行の設定をする。（ドイツ語で卒論を書く場合は教員と相談し、作成上の指導と承認を受ける。）
5. 原則として、本文13ページ以上20ページ以下のページ数とする。

### 【B】 構成部分の体裁

1. 表裏の「表紙」と論文を綴じる「ファイル」2組を購入し<sup>1</sup>、「目次」は各自が作成する。
2. 「本文」は上記【A】3.の設定とし、各ページ下部中央にページを振る。
3. 「注釈」はページごとに脚注として付け、注番号は右肩に番号のみ振る設定にする。  
（その他の細部は各自の使用するワープロソフトの自動設定に委ねてよい）
4. 「参考文献リスト」は、日本語文献は作者姓の「あいうえお」順、外国語文献は作者姓の「abc...」順に並べる。
  - 1) 日本語単行本の場合：作者名（訳者名）/書名/（巻数）/出版社名/発行年  
（例）ライナー・ローゼンベルク（山形他訳）『ドイツ文学研究史』大月書店1991年
  - 2) 日本語論文の場合：作者名/論文名/掲載書誌巻数等/発行所/発行年  
（例）稲生 永「ホフマン変化」『ユリイカ』第7巻2号 青土社1975年
  - 3) ドイツ語単行本の場合：作（編）者姓名/書名/（巻数）/（出版社名）/発行地/発行年  
（例）Bohrer, Karl Heinz: Die Kritik der Romantik. Der Verdacht der Philosophie gegen die literarische Moderne. Suhrkamp Frankfurt/M 1989.
  - 4) ドイツ語論文の場合：作者姓名/論文名/掲載書誌等/発行年/（号数）  
（例）Benjamin, Walter: Das dämonische Berlin. [In:] Sinn und Form. 1984/4. Heft
  - 5) Internetの場合：サイト・アドレス名（例）BMW Japan: <http://www.BMW.co.jp/>

<sup>1</sup> 関学生協文房具売り場で卒業論文を綴じる「ファイル」と表題を書く「表表紙」、最後に付ける「裏表紙」を売っている。提出用に 2組購入すること。

### 【C】提出期限・提出部数

1. 卒業論文提出締め切り日時は通常 **12月20日11時30分** であるが、20日が休日にあたる年は変更されるので必ず文学部事務室が示す締め切り日時と提出場所を確認し、厳守すること。（\*診断書が出る急病の場合を除き、**締め切り時間に1分でも遅れた場合には卒論の提出はできない→卒業できない!**）
2. 論文は**提出用に2部（コピーでよい）**作成して**1部**を「教育・研究資料準備室」に提出し、**1部**を「独文研究室」に提出する。（それに加えて、「卒論試問」準備用にもう**1部**の原稿を自分の手元に保存しておき、1月下旬の「卒論試問」に持参する。）

### 【D】参考文献・websiteからの「引用」方法に関する注意

最近卒業論文に website からの情報を引用するケースが増えているが、以下の「引用のルール」を遵守しなくてはならない。

1. 引用する記述・情報は基本的に印刷された本・雑誌などから取る。
2. 引用の際には、検証可能な形で引用箇所(頁数まで)を明示し、出典を明記しなくてはならない。**引用ということを明示せずに他人の記述を引用することは、「剽窃」という重大な違反行為である。決して行ってはならない。**
3. 最新情報が特定の website でしか得られない場合には、そこからの引用を認める。
4. 上記3. の場合、website の記述がある程度信頼できることを証明できること。（日・独などの「公式サイト」に掲載されているデータは可。個人のブログやサイト、自由に書き換えがきく Wikipedia などは原則的に**不可**。）
5. 他人の本や website から出典を示さずに（一部でも）引用して作った卒業論文の場合、上記2. で述べた**「剽窃」に当たると判断されれば、「卒業論文」の評点は「0点」となる。→卒業できない。**
6. インターネットを活用した文献検索や情報検索は大いに推奨するが、卒業論文にネット上の情報を採用する場合、引用したい論文がネット上に掲載されている場合など、紛らわしいケースでは**必ず指導教員に現物を示して相談し、その指導と承認を得なくてはならない。**